

LECだより



No.65

発行：ライフ・アンド・エンディングセンター
〒338-0001
さいたま市中央区上落合1-9-1-403
TEL 048-856-5673
FAX 048-855-1006



今年もはや夏の入り口にさしかかりました。皆さまにはお変わりなくお過ごしのことと思いますが、今年の夏は猛暑とのこと、高齢者は気づかず重症化することが多いと言われる夏バテ、熱中症など要注意ですね。



『もしもノート』をもって湯河原へ

社団法人全国育児介護福祉協議会の、介護施設が併設されている保養所で『もしもノート』をテキストに、役に立った事例や記入の仕方を1時間半にわたってお話ししました。大宮から湯河原までは、東北線熱海行きで一本、乗り換えなしで約2時間で到着です。

湯河原駅からは迎えの車で5分ほどにある、相模湾を望むちょっと旧式なホテルです。場所柄神奈川、湘南あたりからの方が多く参加されました。中につくば市から来られた40歳の男性もあって、『もしもノート』を若い世代にも受け入れてほしいと、話に少し力が入りました。

「お話を聞いて

ようやく気持ちが固まりました

渋谷区恵比寿に持ち家があり、家作もあるという70代半ばのきれいな女性です。「息子が二人あるけれど、折り合いが悪くて」家の処分についてどうしたら良いのか決めかねているということでした。講座では『もしもノート』の各

ページを紐解いていきます。

『もしもノート』を手にページを追っていくと、思い当たることがいくつも出てきます。例えば「自分に判断能力がなくなる」ことは認知症だけではないのです。脳梗塞や心臓発作などのほか考えればいろいろありますね。元気な時に思い切って手を打っておきたいものです。その方の気持ちを動かしたのは、その中のどれだったのでしょうか。

「遺言さえ書いておいてくれれば」

「昨日遠縁の葬儀に行ってきました。」スタッフの北さんの話です。肝硬変を患い長く呻吟していた60代の一男さんが亡くなったのです。式場につくと、妻の真智さんは、気落ちをして疲れ切った様子で喪主を務めていました。「二人には子供が無く、日ごろは病人を抱えて、兄弟たちとは疎遠だった」と真智さんがいうこの日の葬儀に、夫の兄弟縁者が大勢参列されていたのだといいます。「小柄な真智さんはますます小さくなっていくようだった」「遺言はあるの?」と聞くと「いいえ」という返事、法定相続ではこの場合妻が4分の3、兄弟が4分の1となるけれど、「遺言」があれば全て妻の真智さんが相続できることになるはず、夫の親族に押されがちな彼女に「今後のことについては、司法書士か行政書士などの専門家を入れて決めるようにしてね」「遺言書さえあったら」。小さくなった真智さんに思わず言ってしました。

いつかは皆ひとり 花咲く最期を迎えるために

エンディングパスポート

「虎は死して皮を留め、人は死して名を残す」、後梁（朱梁）の武将王彦章の言と伝えられます
が、死後私たちが残せるのは何でしょうか？

NPO法人ライフ・アンド・エンディングセンターでは、17年間の終活活動の中で、次第に単身高齢者が増えてきました。その人たちの心配事の筆頭は「ひとりで逝った後どうなるのか」ということだとわかりました。ひとりでも心配なく暮らせるよう支援が必要だということが実感されました。また、終活の締めくくりとして、

「この世に生きた証」として、残された遺産を次の世代に引き継ぎ、活用し、花咲かせるために、「死後事務受任事業」を始めるにいたり、この事業を「エンディングパスポート」と名付けました。この事業には、司法書士、行政書士たちが参加し、資産を残すべき身内、縁者がない沢山の人たちのよりどころとなるよう研鑽を重ねています。

ご相談は隨時受けています。些細な事と迷わずご相談ください。



お問い合わせ、ご相談は下記へ

NPO法人 ライフ・アンド・エンディングセンター
エンディングパスポート事業部
048-855-1238

「水かけまつり」へどうですか？

夏がやってきました！

四季折々の楽しみがある日本ですが、「夏は暑くて冬は寒い」夏の暑さに参ってしまうことも。そんな蒸し暑~い日本の夏にピッタリのお祭りがさいたま市新都心の「けやきひろば」で開催されます。その名も「水かけまつり」。東南アジア各国、とくにタイで盛んなお祭り「ソンクラーン」。タイでは4月の旧正月を祝って無病息災や豊作祈願の意を込めて、水をかけて祝福するというお祭りだそうです。

4月といつても、一年中、日本の夏のような気候のタイは、4月5月が一番暑く日本の7、8月頃の気候で、お祭りでは街中の人たちが誰彼構わずに水をかけあって楽しんでいるとか…。そんな暑~いタイのお祭り「ソンクラーン」をアレンジして、会場に用意された水をコップや水鉄砲でかけあって大人も子供も楽しめるお祭りにしたのが「水かけまつり」なんですって。



今年は7月 29（土）30（日）31（月）に開催される予定。

会場ではタイ料理などの屋台のほか、雑貨が揃うマーケットや、エキゾチックな世界各国の舞踏やライブが楽しめるステージなど、毎年、大人も子供もたくさんの人出で賑わうそうですよ。



不安のないひとり暮らしのための終活

このたびLECでは、さいたま市の「マッチングファンド」の助成を受けて「自分の死後はどうなるのか」という多くのひとり暮らしの方々の不安の軽減を求めて、9月から11月にかけて6回の講座を開きます。

講座では各方面の有識者に講師を依頼して、ひとり暮らしの高齢者ばかりではなく、これから暮らしを取り巻く諸問題について卓見をお聞きし、不安のない終活に何が求められるかを考える機会にしたいと思います。

講座は、9月25日（月）午後1時30分～3時30分
ライフデザイン研究本部研究開発室 主席研究員

小谷みどり氏の講演を皮切りに、10月前半に公益社団法人成年後見センター・リーガルサポート埼玉支部代表、後半に、大東文化大学大学院 教授

大杉由香氏、11月以降は、信託協会 担当者、うらわ公証人センター 公証人小林英樹氏、みずほ情報総研 社会保障藤森クラスター 主席研究員藤森克彦氏などを予定しています。会場はいずれ浦和コミュニティセンターの予定です。
近くチラシの配布をいたしますので、この機会にぜひご参加下さい。

【年金が多い人こそ、リビング・ウィルを表明しよう】

当たり前ですが、年金は、生きていないと受給できません。認知症が進行して自己決定ができなくなった場合、その年金を管理しているのはご家族です。生活保護費よりはるかに多い年金が支給されている場合、その年金に、介護者を含めて何人のご家族の生活がかかっていることがよくあります。もし、年金受給者の患者さんが亡くなられたら、何人もが路頭に迷うので患者さんの「死」は家族のまさに死活問題。「延命」は患者さんだけでなく、ご家族の「延命」もあるのです。

「年金産業」と私は勝手に呼んでいます。患者さんの命が現状のままあり続けることが最優先で、亡くなると「失業」してしまいます。それを避けるためには、患者さんの尊厳とは無関係にフルコースの延命治療を希望されます。

少し前、「戸籍上は生きていた長寿の方が実は大昔に亡くなっていた」というケースが立て続けに発覚し、長期間の年金不正受給が

社会問題になりました。不景気で経済状況が厳しい今、死亡届を出さなかったご家族の気持ちはなんとなく想像できます。平穀死を考えるとき、多額の年金が穏やかな旅立ちを妨げる要因になる場合があります。延命治療を含めた在宅療養の話をするとき、ご家族の代表者となるキーパーソンを決めてもらうのですが、お金の問題が絡むと、家族内の感情的な対立に巻き込まれることがよくあります。私は、多額の年金が平穀死の邪魔をするケースをたくさん見てきました。

年金だけでなく、財産も同じでしょう。ご家族や親族間のものめ事の火種になるようなことは、ご自分が元気なうちに対策を立てておくべきです。



長尾和宏医師の著書

『「平穀死」10の条件』からの抜粋

◆◆◆◆ インフォメーション ◆◆◆◆

講座事業報告・予定 2017年

6月1日(木) 全国育児介護福祉協議会
湯河原荘・講座

6月6日(火) 浦和コミセン第11集会室
介護の勉強会

6月16日(金) 浦和コミセン第9集会室
介護の勉強会

6月21日(金) 原山公民館
終活について

6月30日(金) 浦和コミセン第14集会室
第49回「大往生の勉強会」

7月7日(金) 浦和コミセン第9集会室
介護の勉強会

7月31日(月) 浦和コミセン第14集会室
第50回「大往生の勉強会」

9月25日(月) 浦和コミセン第15集会室
さいたま市マッチングファンド協働事業

6回講座・第1回目
講師 第一生命経済研究所ライフデザイン
研究本部

主席研究員 小谷みどり氏
さいたま市マッチングファンド協働事業

全6回講座
会場)全て浦和コミセン第15集会室
申し込み)抽選
往復はがきで氏名住所電話年齢明記のうえ申込み。

第1回 9月25日(月)
講師 第一生命経済研究所
主席研究員 小谷みどり氏

第2回 10月10日(火)
講師 リーガルサポート埼玉支部

第3回 10月31日(火)
講師 大東文化大学大学院教授 大杉由香氏

独りでも心配ない エンディングパスポート™

〈死後事務委任契約〉

LECが取り組む「死後事務」は、これから社会的な問題になると思われます。エンディングパスポート事業部では、人々の間にこの問題を知って頂くための講座開催準備中です。詳細は後日お知らせします。

皆さまのご参加をお待ちしています。

お問い合わせ、ご相談は下記へ

NPO法人 ライフ・アンド・エンディングセンター
エンディングパスポート事業部
048-855-1238

7月の花



○トルコキキョウ

○花言葉

- ・「希望」・「優美」・「永遠の愛」・「よい語らい」
- ・「変わらぬ美」など

日本にトルコキキョウが渡ってきたのは、昭和の初めです。

原産国はアメリカですが、今のように、美しい姿になったのは日本に来てからと言われています。

編集後記

梅雨が明けると、子どもたちにとって嬉しい夏到来ですが、私たちの歳(?)になると、できることなら避けて通りたい季節です。地球温暖化の影響も大きいのでしょうか、年々夏の暑さが「ハンパ」ではなくなり、身に堪えるようになりました。熱中症という言葉も少しも珍しくなくなり、大手を振って私たちにまとわりついてくるようです。